

ニラにおける土壌物理性簡易診断項目と基準値

農業研究部

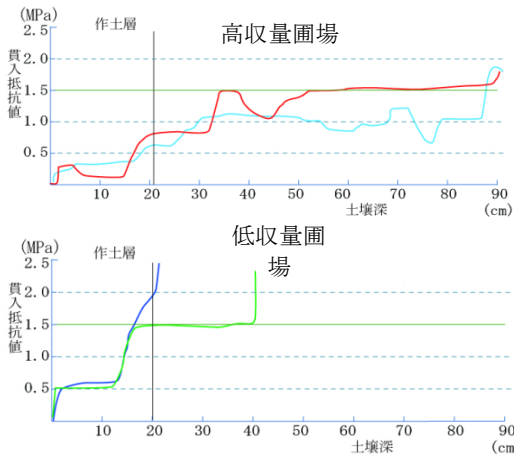
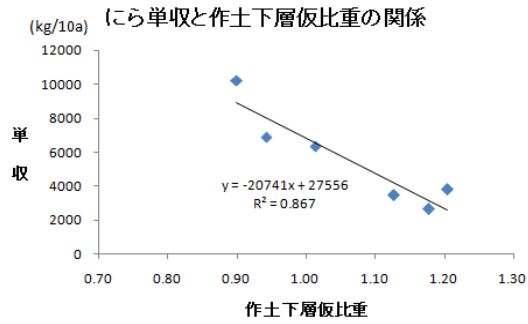
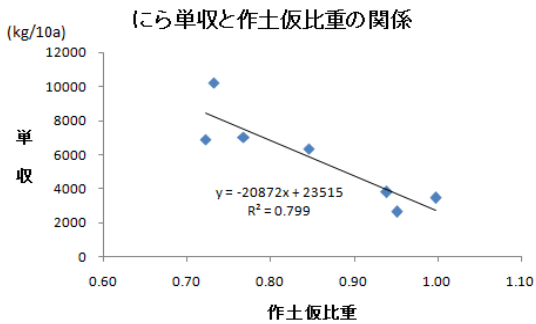
1. 研究の背景

大分市のニラの平均単収は4.6 tであるが、2 t～8 tと収量に差が大きい。従来より、土壌化学性のみによる土壌診断、改良が行われ、土壌物理性についてはあまり考慮されていない。そのため、土壌物理性改善にむけた診断方法の検討や改善の指標が必要である。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・ニラでは高収量ほ場で土壌作土及び下層の仮比重が小さい傾向であった。
- ・振興局に配備している貫入式土壌硬度計で測定する作土層の貫入抵抗値1.5MPa（メガパスカル）以上が土壌改良の目安となる。

※仮比重は値が小さいほど土が締まっておらず、堆肥などを投入している目安となる。



貫入式土壌硬度計

○部分にチャート紙をはさんで記録

貫入式硬度計で記録したチャート図（2回測定）

低収量圃場の改善策

- ・土壌改良のために、樹皮質の堆肥を45 cm程度までの深いところまで投入し、仮比重や孔隙率を改善する。
- ・1～2年に1度深耕を行い、耕うんは土を細かくしすぎない。

3. 期待される効果

- ・単収の向上
- ・栽培品質の向上

4. 担当機関連絡先

農業研究部 土壌・環境チーム
 TEL：0974-28-2072
 住所：豊後大野市三重町大字赤嶺2328-8